

令和3年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立大野東小学校	校長	谷本 直子	生徒指導主事	江盛 浩司
-----	-------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『自己有用感を高める取組について』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「認め合い」	2	「課題発見・解決学習」	3	「自己肯定感・自己有用感」	1

取組のねらい

自ら考え、学び合い、高め合う児童の育成～自己有用感を高める学級づくりを通して～

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『キーワード 自らを向上させる』
<ul style="list-style-type: none"> ・全学年での成長ノートを活用 週の初めに1週間の目標について計画を立て、その週を意識して過ごし、週末に振り返りを行う。 1週間の目標だけでなく、運動会・学習発表会等の行事においても活用し、目標・振り返りを行った。 ・友達の「いいところ見つけ」の実践 学級活動や朝の会、帰りの会において、友達からいいところを言ってもらい自己有用感に繋げる。 ・学年単位での集会の実施 学年を通して、「～祭り」という形で集会を行い、学年内での児童の交流を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童自らが立案・実行・振り返りを行う場の設定と工夫 ・自分自身が見返して、足跡が残るように、ノートに記録を残すこととした。 ・自己の振り返りと共に、友達にも振り返り（友達のよかった事等）を書いてもらい、自己有用感を高める。 ・教室内で自分たちが意識できるように可視化をした。 ビー玉のたまっていく数 よいところを書いて張った木 ・学級会の進め方の系統表を基にした『課題の発見の仕方』及びその『解決への取り組み方』の指導



取組の成果と課題

- 自分を振り返ることで、よい事も、悪い事も含めて分かるようになってきた。
- 褒め合うことが上手になった。
- 友達同士の褒め合いが特定の人ばかりになりマンネリ化したり、コロナ禍で異学年との交流が少なかったため、クラスの児童以外の児童から褒めてもらう機会が少なかったりした。また、ほめる時の語彙数が少ない。
- 自己有用感が低い児童の傾向を見て見ると、家庭で褒めてもらう機会が少ない児童であった。家庭と連携を取り、児童を家庭でもしっかりと褒めてもらえる取組を行う。